

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0870700226		
法人名	NPO法人 エプロン		
事業所名	グループホーム エプロンハイム		
所在地	茨城県結城市田間中1489 (電話) 0296-20-9050		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年5月20日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	造り		
	2階建ての 階 ~ 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,100 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1270 円

(4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	2	名	要介護4	3	名	
要介護5	3	名	要支援2		名	
年齢	平均	87.3歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おやま城北クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスを利用している家族からの要望があり、グループホームを立ち上げた。昔からの家が立ち並ぶ環境にあり、ホームの造りも木造2階建てになっている。ホーム内は、家庭的な雰囲気、こたつでおしゃべりを楽しむ利用者や、畳の場所で洗濯物たたみをしている利用者の姿があった。職員の、利用者に対する対応は穏やかで丁寧であり、利用者も安心して生活しているように窺えた。地域の小学校で行われる運動会に出かけたり、老人会の福祉大会に参加したりと地域との交流する機会も多くあり、地域と共にその人らしい生活が送れるように日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	夜間想定の実施や災害時の備蓄品について、全職員で話し合いが行われており、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、ミーティングで職員から意見を聞き、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域との交流についての話し合いが行われ、民生委員の協力により、老人会の福祉大会に参加できるようになり、地域の高齢者と関わりする機会ができた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時等には積極的に声をかけ、意見等を聞く場面作りをしている。出された意見等は、職員全員で話し合いを行い、運営に反映するようにしている。今後は、家族同士が意見交換できる場として家族会の発足を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域活動に利用者と一緒に参加している。地域で行われる行事や近隣小学校の運動会に出かけたり、老人会の慰問やボランティアの来所等、地域住民と関わる機会が多くあり、地域との連携が図れるように、積極的に働きかけを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの個性を尊重し、個人のペースに合わせ、地域と共にその人らしい生活が送れるよう支援していく事を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングには、理念に必ず触れ確認するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事に参加したり、老人会の訪問やボランティアが来所する等、地域と交流する機会がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的についてミーティングで、話し合いが行われており、自己評価を作成するにあたり、職員から意見を聞き管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事報告、スプリンクラーの設置など議題をあげ、話し合いが行われ意見をもらっている。運営推進会議の会議録を玄関に置いて、家族にも閲覧できるようになっている。		

茨城県 グループホームエプロンハイム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、相談しやすい関係であり、意見交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話にて、利用者の状況報告を行っている。計画作成担当者が交代した際は、文章にて報告し、家族に郵送している。		家族に報告した内容を記録に残し、職員間での情報共有を図って欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時等には、声をかけ意見等を聞く場面作りをしている。出された意見は、話し合いを行い運営に反映させている。家族同士が意見交換できるよう、家族会の発足を検討している。		クリスマス会等、家族同士が集まる機会を活用し、意見交換の場を提供して欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がやむを得ない場合は、時期や引継ぎの面での工夫が望まれる。新しい職員と利用者が馴染みになる期間は、馴れた職員と一緒にケアを行う事で、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し研修報告を記録に残しているが、報告する機会がないため、職員間での情報の共有が図られていない。	○	外部研修の報告を、会議等で行うことで全職員が情報共有できるように努めてほしい。また、ケアの質の向上を図るため、内部で学習する機会を設けて頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、勉強会等に参加したり情報交換をしたりと、交流の機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいたり、自宅に出向いたりしながら顔なじみの関係を作り、安心感をもってからの利用してもらっている。併設のデイサービスから、利用につながった利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考え方を職員は共有しており、料理や家事、人生観など利用者から学んだり、教えてもらう場面が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、利用者の思いを把握するようにしたり、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や思い等、職員が日々の関わりの中で得た情報や意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況などを評価したりと、定期的に見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合には、現状に即した介護計画の作成を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて、通院介助を行ったり、入院時の洗濯物なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院は、24時間対応可能であり、2週間に1度の往診がある。利用契約時に、提携病院の話をし、家族了解の下、変更している。眼科や歯科など、本人や家族の希望に合わせて受診支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のマニュアルも整備されており、看取りの事例がある。医師から家族に利用者の状況を説明してもらった後に、看取り同意書を交わしている。重度化や終末期に向けた方針の共有も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、事務所に保管している。面会時、家族にプライバシーに関する事を報告する場合は、必ず事務所で行うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決めているが、利用者のペースに合わせた支援をしている。また、その日、その時に必ず利用者に希望を聞くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを利用者と一緒に行っている。また、食事は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事の時間が取れるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴が楽しめるよう、季節に合わせてゆず湯や入浴剤を入れている。拒否がある利用者に対しては、声かけや対応に工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事や趣味の縫い物や編み物、野菜の収穫等、利用者の生活歴や力、楽しみ事を活かした支援をしている。仕事を行った後は、必ず感謝の言葉かけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLの低い利用者が多く、外出の機会を多く出来ない事が現状ではあるが、近場の散歩など多く持ち2ヶ月に1度はドライブでの気分転換など外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを職員全員で取り組んでいる。利用者の行動に注意し、目配りや気配りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定の実施されていないが、消防署立ち会いで消火器の訓練や避難訓練を利用者と共に行っている。近隣からの協力を得られるように、働きかけも行っている。	○	職員の不安を解消するために、夜間緊急マニュアルの整備と共に、夜間想定の実施を近隣の方と一緒にすることを期待したい。また、災害用の食料品や飲料水などの備蓄品の準備に努めて頂きたい。

茨城県 グループホームエプロンハイム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事を提供するために、献立表を栄養士にみてもらっている。利用者の状態に合った食事形態で提供しており、食事量や水分量もきちんと記録されている。また、月1回体重測定を実施し、変動を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはこたつがあり、それに当たって利用者同士で楽しくお話していた。共用空間には、季節の花が飾られていたり、観葉植物が置かれていたり、休めるソファが置かれていたり居心地よく過ごせる空間となっている。		年齢と共に視力や視野が衰えてくることを考慮し、利用者に対する配慮として、洗面所前の周りを明るくすることを提案する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、自宅で使っていたベットやたんす等の家具が置かれており、利用者が安心感を持って過ごしていただけるように家族に協力を得ている。		